

北朝鮮が巡航ミサイル発射、同盟国が訓練

キム・ヒョンジン AP 通信、キム・トンヒョン AP 通信

[ソウル 28 日ロイター] -韓国軍は、北朝鮮が米国との軍事演習に抗議して韓国を模擬核攻撃した 3 日後の水曜日、北朝鮮が海上に向けて巡航ミサイルを発射したと発表した。

北朝鮮は、韓国と米国が軍事訓練を実施していることを侵略の予行演習と見なしており、これに対抗するものとして兵器実験を強化している。金正恩朝鮮労働党委員長は、国内の経済的苦境の中で強い指導者のイメージを高める一方で、外部の譲歩を引き出すために兵器を拡充する意向である可能性が高いと分析されている。

11 日間に及ぶ韓米合同軍事演習は木曜日に終了する。しかし、米国が数日中に空母を派遣し、韓国との再度の合同軍事演習を計画していると報じられており、北朝鮮は兵器実験を継続するとみられる。

韓国の合同参謀本部は、北朝鮮東部の海岸沿いの町、咸興から「数発」の巡航ミサイル発射を探知したと発表した。ミサイルは北朝鮮の東海岸沖に落下し、韓国と米国の情報当局がさらなる詳細を分析しているとした。

北朝鮮のミサイル発射実験は今月に入って 6 回目で、先週初めに米韓両軍が野外演習やコンピューター・シミュレーションを含む大規模な軍事演習を開始してから 4 回目となる。野外演習は 2018 年以降で最大規模。

合同参謀本部は、「韓国軍は確固とした即応態勢を維持し、米国との残りの訓練を成功裏に終える」としている。

北朝鮮は、複数の国連安保理決議で実験が禁止されている弾道ミサイルシステムを大量に保有している。過去に北朝鮮が弾道ミサイルや核実験を行ったため、2006 年以降、11 回の国連制裁が承認された。

北朝鮮による巡航ミサイルの実験は、国連安保理で禁止されていない。しかし専門家は、レーダー探知を避けるために低空飛行するように設計されているため、依然として近隣諸国に深刻な脅威を与えていると指摘している。専門家によると、北朝鮮の巡航ミサイルの主な任務は、紛争時に米空母などの大型敵艦を攻撃することだという。

北朝鮮は巡航ミサイルと弾道ミサイルの一部を「戦略兵器」と呼んでおり、核弾頭の搭載を示唆している。外国の専門家は、北朝鮮が機能する核ミサイルを保有するために残された技術的ハードルを克服したかどうかを議論している。

北朝鮮の国営メディアは、水曜日の発射を直ちに確認しなかった。しかし、北朝鮮の非核化を推し進めようとする最近の国連安全保障理事会における米国の外交的試みに抗議する外務省高官の趙哲秀の声明を掲載した。

趙報道官は、北朝鮮は外部からの核放棄の動きを「宣戦布告」と見なすと述べた。北朝鮮の核ドクトリンがエスカレートする中、このような動きに厳しく対処すると述べた。

北朝鮮は昨年、過去一年間で最多となる70回以上のミサイル発射実験を行った後、2023年にも兵器に関するデモで挑発的な行動を続け、10回に分けて約20発のミサイルを発射した。今年実験された兵器には、韓国を攻撃できる短距離核搭載弾道ミサイルや、米国本土を攻撃する大陸間弾道ミサイルなどがある。

北朝鮮は、韓米合同軍事演習が始まる前日の3月12日、潜水艦から巡航ミサイル2発を試射した。北朝鮮は先月、長距離巡航ミサイルと称する4発のミサイルを発射し、2,000キロ（1,240マイル）先の目標を攻撃できる可能性を示した。

金総書記は27日、地下に掘ったサイロと思われる場所から短距離弾道ミサイルを発射する実験を監督した。国営メディアはこれを、米国と韓国の軍事演習について「より強い警告」を送ることを目的とした、特定されていない韓国の標的に対する模擬核攻撃だと報じた。

北朝鮮のメディアは、ミサイルに搭載された模擬核弾頭が、被害を最大化することを目的としたと一部の専門家が指摘する高度である水面上 800 メートル (2,600 フィート) で爆発したと伝えた。

北朝鮮がこれほどの高度で核兵器を爆発させたと公表したのは初めてのことであった。

このような情報を公開することで、韓国と米国を威嚇する狙いがあったとみられる。金委員長は先週、国内最長射程の ICBM 「火星 17」 の発射実験を行った後、国営メディアに対して「敵に恐怖心を与える」ための発射だったと述べた。

北朝鮮の相次ぐ核実験は、金総書記が核兵器の保有を進めていることを示している。北朝鮮は昨年、核兵器の先制使用を認める法律を制定した。

韓国と米国は合同軍事演習を拡大して対応している。

韓国国防部はこれに先立ち、韓国と米国が 6 月に「前例のない」規模の実弾演習を実施する予定だと発表した。

韓国軍と米軍は共同訓練の一環として、北朝鮮との陸上国境付近で実弾演習を実施した。第 2 歩兵師団副司令官のブランドン・アンダーソン大佐は、訓練は防衛的な性格のものだと強調した。

「我々はそれを続けるつもりだ」と彼は言った。「それは我々が対立の中で行い、それを得意とすることを期待していることだ」。

—

AP 通信のビデオジャーナリスト Yong Jun Chang (韓国抱川) がこの記事を書いた。